郷土愛プロジェクトについて

【本日の内容】

1　郷土愛プロジェクトとは

2　高校への取組について

3　今後の構想と取組

1　郷土愛プロジェクトとは

コンセプト

「地域に学び　地域をつなぐ
地域の力で<u>ふるさとの未来をつくる</u>」

「自分、今」の視点を超えて
「ふるさと、未来」の視点も
もち、
ふるさとの未来の
種をまき、育む活動

上伊那**8**市町村の**産学官**組織が、
従来の枠組みを超えて**協働**しながら、
次世代育成や地域づくりを
実践しているプロジェクトです。

息の長い取組
（次世代育成、地域づくり）
に対して、
組織を超えて協働

※協働とは、複数の組織が、ビジョンを共有し、尊重し合いながら、
力を合わせて主体的に活動すること

発足の背景（2010年頃）

産業界
若者の地元就職率の低さ（若者人材流出）
地域の生活を支える産業衰退へ危機感等
職場体験（中学生）受入に対する課題

学校　（中学校）
キャリア教育・職場体験の課題（生き方を学ぶキャリア教育は学校だけでは出来ない、職場体験受入企業が少ない等）

行政・地域
少子高齢化の加速
地域の担い手の不足
若者との接点の不足
伝統・祭り等の継続危機

みんなの「課題・思い」が重なる
「このままでふるさとはいいのか？」
何かできないか？
何かするしかない！！！

みんなの思いから
生まれました！！

2014～
郷土愛プロジェクト発足

～地域で子どもを育てよう～
子どもは地域の宝
地域の未来

【発足時からの思い】

今を生きる私たちは、**10年後、20年後、30年後の伊那谷に、どんな人・もの・ことをつないでいけばいいのでしょうか。**
伊那谷の自然・文化・歴史と結び合いながら営んできたこれまでの暮らしを、どう考え、何を次世代につないでいくことが望ましいのでしょうか。
郷土愛プロジェクトは、「これからの伊那谷について、上伊那の産業界、教育界、行政、家庭、地域が深く結びつき、互いに知恵を出し考え合いながら、**よりよいふるさとの未来を担う人材を育成したい」**という思いで立ち上げました。（向山会長　郷土愛PJホームページより）

発足の経緯

2004年～　長野県経営者協会上伊那支部として青少年育成委員会を組織
⇒キャリア教育（職場体験）に対して、個々の企業としてだけでなく、産業界で組織化し、学校支援開始

2011年～　伊那市キャリア教育推進委員会発足
⇒産学官でキャリア教育を取り組むために組織化

2013年～　伊那市キャリア教育憲章作成　産学官協働型の具体的な実践開始

↑醸成期間↓

2014年～　上伊那8市町村長×経営者協会の懇談会（10月）において報告と提案

郷土愛プロジェクト

「郷土愛プロジェクト」発足　～上伊那の産学官で取り組んでいこう～

2015年～　「上伊那8市町村」展開　本格実施（構成団体に上伊那の教育委員会が参画）

2016年～　上伊那広域連合が正式に事務局を担う（組織規約作成）

2017年～　小中高大の連携づくり（構成団体に校長会）

※詳しくは、ホームページ等参照

現在の構成団体

賛同いただき、
年々増加中！

学

上伊那小・中校長会

上伊那地区高等学校長会

信州大学農学部

産

長野県経営者協会上伊那支部

伊那商工会議所

駒ヶ根商工会議所

長野県テクノ財団　伊那谷財団

上伊那産業振興会

官

長野県教育委員会　南信教育事務所　上伊那８市町村教育委員会

上伊那市町村教育委員会連絡協議会　上伊那広域連合（事務局）

地域：上伊那ＰＴＡ連合会、伊那谷財団

キーワードは「つなぐ」

郷土愛プロジェクト組織・事業体系図

地域に学び、地域を学ぶ、地域の力でふるさとの未来をつくる

産学官で組織・推進する　郷土愛プロジェクト
全体会議年４回　事業推進母体・情報共有・提案・報告等
会　長：向山孝一（ＫＯＡ株式会社会長）
事務局：上伊那広域連合　地域振興課

事　務　局　上伊那広域連合 地域振興課
運営調整・広報・会計・他団体との連携等
事務局会議　年５回 全体会議案検討　等

＝構成メンバー＝　産 業 界：県経営者協会上伊那支部関係・上伊那産業振興会・伊那テク・２商工会会議所
学校関係：信州大学・義務校長会・高等学校長会・８市町村教委
官庁関係：８市町村教育委員会・長野県教委・南信教育事務所・上伊那広域連合　等 55 名

「産学官協働」事業

産学官の大人が情報共有と意見交換を行い、これからの地域づくり等を考える。

【事業名】

○キャリア教育産学官交流会
　第１回 2013 年。年１回開催。
　８市町村持ち回りで開催。
　本年度は、10/19 南箕輪村開催。

○未来ラボ in 伊那谷
　上伊那のリーダー育成。これからの地域づくりを共々に考える。年 4 回ほど開催。

「次世代育成」事業

未来を担う子どもに様々な形でサポートし、人との出会いや体験活動等を通してふるさとをため込む。

【事業名】

○キャリアフェス（小・中・高）

○夢大学
　高校のキャリア教育
　小・中のふるさと学習
　ＵＩＪターンつながり創出事業

○伊那谷再発見～子どもの未来応援団～
　小・中・高が集まり活動交流の場

○歴史・文化体験ツアー

「学校支援」事業

小・中・高校・大学でのふるさと学習やキャリア教育において、学校での学びと地域や地域の大人につなぐなど、学校のめあてに添ったコーディネートやサポートを行う。

【具体例】

○「総合的な探究の時間」の支援
○文化祭テイクアウト支援
○高校生主催ドライブシアター開催
○「こんにちは先輩」
○上伊那歴史リーフレット
○「くらしの歳時記」作成　　など

「市町村連携」事業

年３回８市町村教育委員会キャリア教育担当者会議を開催し、上伊那のキャリア教育についての方向性を見出す。

【協働事業内容】

○上伊那の輝く大人登録
　　「きらめき人１００選」
○中学生職場体験情報
○職場体験受け入れ企業アンケート
○各市町村実施のキャリア教育事業情報・事業報告

様々なことをしています！

産・学・官の皆さんと

小・中・高・大の若者に向けて

2　高校へのサポートの経過と現状（R1～2郷土愛PJの取組から）

【めざす姿】
主体的に学び続け、自らの能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、様々な他者との対話や協働を行い、新たな価値を見出していくことができるようになる

「総合的な探究の時間」

どのように社会、世界とかかわりながらよりよい人生を送るか

予測できない未知の時代
変化の激しいこれからの社会
多様な課題を抱えた未来を生きる子どもたち

【実施にあたっての先生方の思い】
＊地域を題材にした探究活動をやりたい
＊地域の人とつながりたい
＊教師自身も地域を学びたい

【郷土愛PJのもつノウハウ】
*産学官で構成
＊8市町村教委との連携体制
＊地域の多くの方とのつながりがある
＊小中へのかかわりの実績

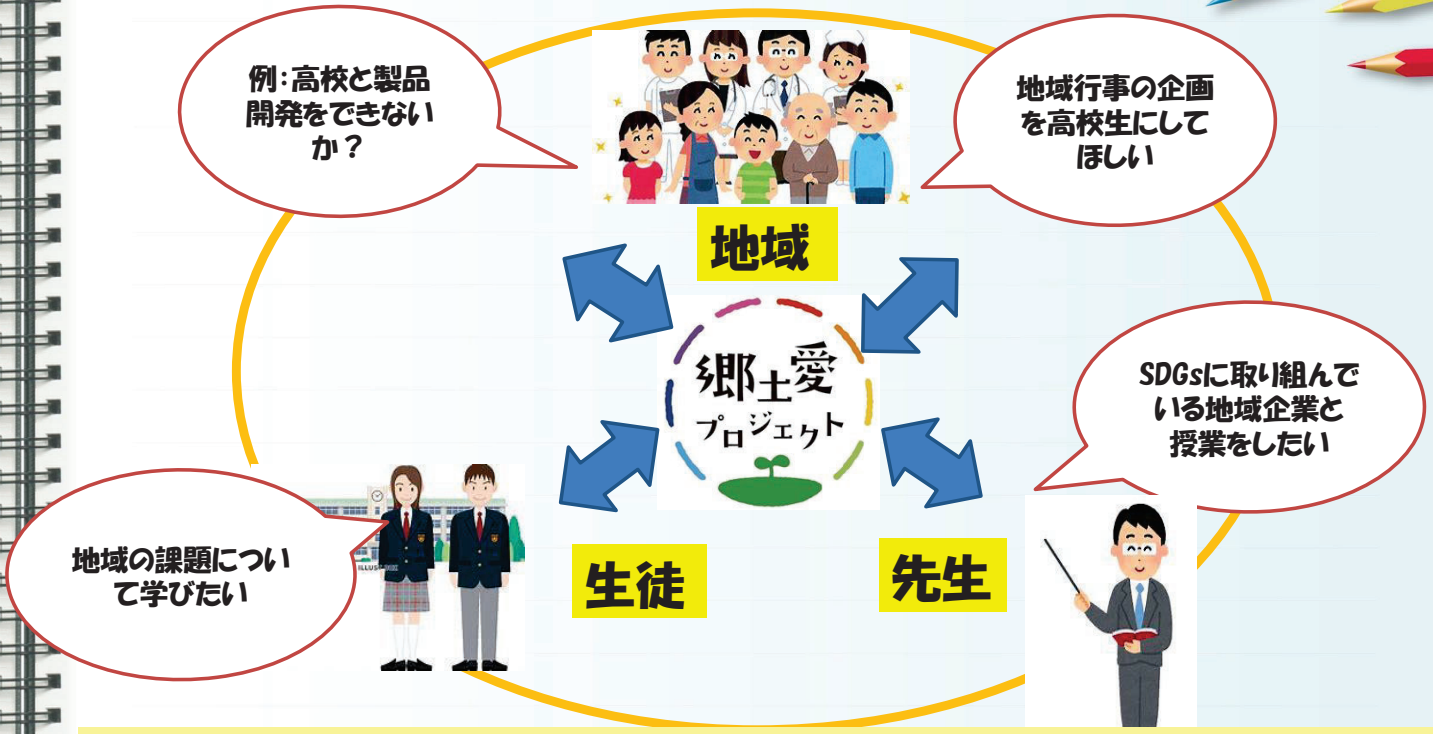
【各学校の特色ある総合的な探究の時間】

伊那北高校
地域で活躍する大人を招き、生き方・働き方に学ぶ。自己で立てた問いをもって地域を巡り、それをもとに課題を見出し、仮説を立て、調査分析しまとめる。

伊那弥生ケ丘高校
自分で決めた課題を地域の講師と共に、継続的に探究し、自らの体験を通して、地域とのかかわりの中で学びを深める。

【大切にしていること】新しい時代の教育や地域創生に向けた学校と地域の連携・協働のあり方＝地域と学校が協働で推進していく

【郷土愛PJの役割】　高校と地域を「つなぐ」



郷土愛プロジェクトは、それぞれのニーズ（願い）をつなぎ、実現することを通して、生徒（学校）が、学びを深め、地域（社会）への理解・誇り等を深めることを支援します！
地域が、学校（生徒）と接点をもち、生徒の チカラを地域に生かすことを支援します！

①伊那北高校との取組

【こんにちは先輩】

①めあて　○地元で活躍する大人にインタビューし、考え方・生き方を学び、将来を考えるきっかけにする。
○地域課題に向き合う講師の姿から、地域課題を自分ごととらえる視点を得て、今後の課題研究の展開につなげる。

②内容　1年生が20グループに分かれて、様々な業種の大人にインタビューを 4回行う（教室等）

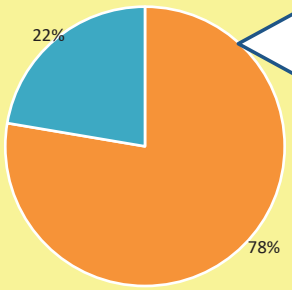
③生徒・先生・社会人講師の声

○生徒・・・意識が大きく変わった。自分の気持ちを大切にして、もっと挑戦しようと思った。先輩の本音を聞いて気持ちが少し楽になった。地元で働くのもいいなと思った。何でも100%で取り組むやる気を持った。将来について真剣に考えるようになった。

○先生・・・・様々な業種の方のアツいお話を普段聞くことができないのでとても勉強になった。生徒の楽しそうに聞く姿や真剣な質問が印象的だった。

○講師・・・・高校生と話す機会は少ないので、刺激になった。母校の授業に関われて嬉しく思う学校外の世界や大人の人の話を聞く機会は、視野が広がる良い機会だと思う.

④成果



【こんにちは先輩の実施前と後の意識の変化はあったか】

78%が意識が変わったと回答　意識が変わるというのは、価値観（生き方）に触れる交流があったということだと考える。書ききれない程の感想から生徒がこのような機会を求めていたことが伝わってきた。

また、自分がインタビューするという形をとることで、自分自身に重ねたり、引き寄せたりすることができ、終始興味をもって聞くことができていた。生徒だけでなく、先生、講師ともに満足度が高い企画であった。

②伊那北高校との取組

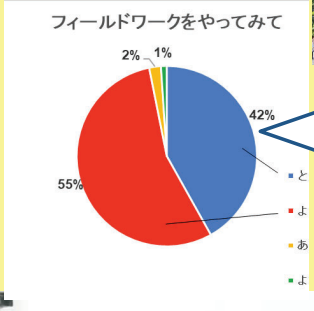
1日丸ごと地域「フィールドワーク」（1年生200名⇒5コース）

①めあて　地域の企業・団体等を実際に訪問し、取組を知ったり、活動している方と直接対話をしたりすることで見聞を広げるとともに、今後どのような課題に取り組んでいくかを考えるきっかけとする。

②内容　5グループに分かれ、以下テーマごと40名前後が地域の数か所を移動

コース名	テーマ	内　容
① 国際協力	ここから始まる世界とのつながり	国際協力の現状、施設見学、体験談、語学研修体験、ワークショップ（JICA駒ヶ根訓練所）
② 産業と技術	世界に誇る上伊那の技術力	着実に業績をあげている地域の産業・技術について学ぶ
③ 環境と自然	どう活かす？地域の豊かな自然	地域資源を活用した持続可能な社会、上伊那の林業や木材資源の活用
④福祉と 防災・減災	人を守る・地域を守る ～誰もが安心できる地域に～	多様な人が活躍し共生する街づくり、地域を守り支える企業の取り組み、防災・減災プログラム、
⑤ 食と農	食べることは生きること ～持続可能な農業を～	戦略を持った持続可能な農業（栽培と加工、商品化、ブランド化等）、ジビエ料理、食品ロス問題

③成果



【フィールドワークをしてみて】

とてもよかった42%、よかった55%で合わせて**97%が学びの価値を高く感じる企画**となった。直接現場（企業等）に伺い、対話や体験を通した学びにより、地域への思いの変化が多く見られた。

伊那弥生ヶ丘高校との取組

1　2学年「総合的な探究の時間」

①めあて　地域の大人が、コロナ禍の中、危機にどう向き合い、何をしようとしているのかを学び、身近な地域課題に対して、アクションを起こし、地域のあり方、大人の生き方に学ぶ。

②内　容　地域人講師を招き、生徒は13の講座から自己選択し探究活動を行う。

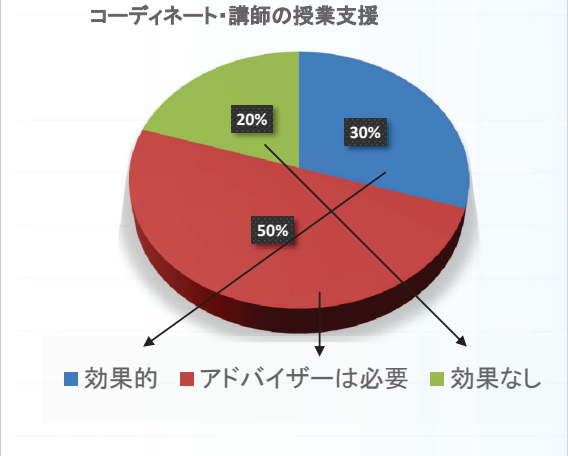
主題	所属
施設活用（アルラ利用）	伊那谷財団
高遠ロゲイニング	信州大学教育学部
STCO	伊那弥生ケ丘高校3年生
災害ボランティア	伊那市社会福祉協議会 伊那市役所
ありがとうプロジェクト	丸中産業
SDG s	SDGs公認ファシリテーター
国際協力（民際協力）	ネパール交流市民の会
観光	長野伊那谷観光局
観光	伊那市役所
地域活性（マスコミ）	アドコマーシャル
ものづくり	南信工科短期大学校
子育て支援	E-CURE(株)
外国籍児童支援	箕輪町役場多文化共生推進員
農業	農家・JA上伊那
地域活性化	信州大学農学部学生

【先生方の願い】
とにかく地域に出て、生徒自ら行動できる活動を見出し、実践してほしい。

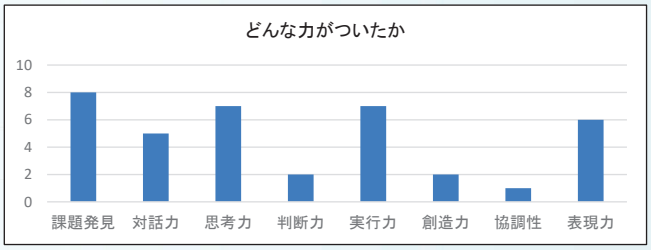
担当教諭・講師・コーディネーターの役割の明確化
担当教諭=ファシリテーター（相互作用と創造性を促す・場づくり）
講師＝授業の主役を生徒にして、活動を通して生徒の内にある力を引き出す。
コーディネーター＝地域と学校・生徒をつなぐ。地域の情報提供。

昨年度の振り返り　（職員アンケートから）

コーディネーターや講師の必要性



どんな力がついたか(教師）



【生徒からの感想】

地域の大人の方と一緒に、自分たちが主体になってやったのは初めてだったので、まずは、とても楽しかったです。失敗してしまったこともうまく行かないこともあったのですが、それこそがとてもいい経験になりました。周りの大人は、私たちがやりたかったことをちゃんと見て、支えてくださり本当に嬉しかったです。

【教師からの感想】

今年の課題探究は本校として初の試みであり、コロナ渦の影響で年間行事予定も大幅に変更せざるを得ない状況の中、外部アドバイザーの方々には様々なご苦労をおかけすることになりました。何とかアクションを起こさせたい、自らの行動から感じ学ぶ探究学習にしたいとの思いで始まり、ここまでやりきることができ、教室に座っているだけでは知ることのない世界を体験できたのも、アドバイザーの方々あってのことでした。今後もこのような学習の必要性を伝えていきます。

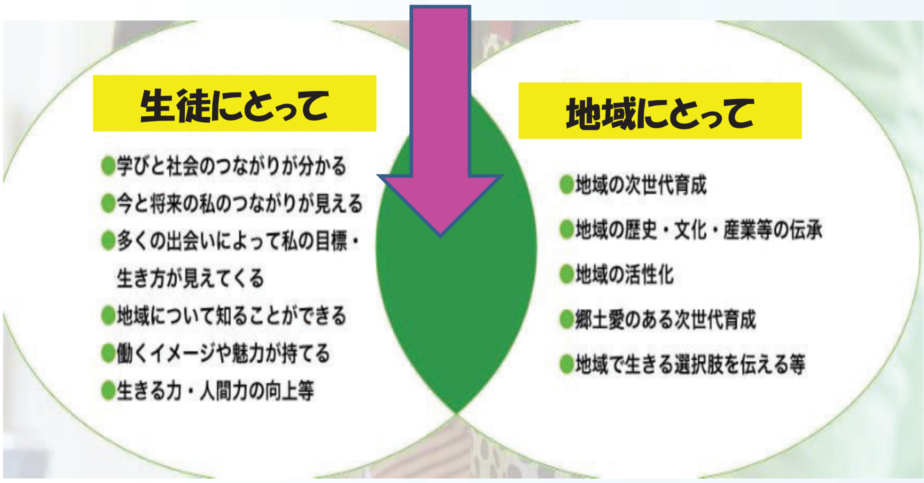
高校との取組【総括】

【成果】

〇多くの生徒に、地域や多様な大人との関わりにより、意識の変化や学びの深まりが見られた。また、学びから行動（アクション）につながる場面も多く見られた。

〇高校の先生方からは、地域とつながることで、校内だけではできない学びの実現や内容の充実につながったこと、自身も学び機会になったという声が多かった。

〇関わった地域（産業界、講師等）の皆さんからも、高校生との関わりから、学びやアイディア等をもらったとの意見が大多数であった。地域の次世代育成に関われることに　意義や価値を感じていただけた。



地域との学びが、生徒･地域の両者に、Win Winの関係性が見え始めた。

【今後に向けて】

〇「どのような学びを目指すのか」 対話の機会をとおして、産学官でビジョンや思いを共有し合い、よりよい教育のあり方を検討したい。

〇一人の子どもの成長（キャリア形成）の視点から、幼保小中高大･社会のつながりや組織間の連携を強めていきたい。

〇高校教育の教育課程全般に渉り、キャリア教育の視点をもった学びにつながる支援をしたい。（「探究の時間」に限らず、教科学習、課外学習等、様々な学びを地域につなぐ）

〇生徒が、より主体的にひと･もの･ことにかかわり、自分事として考えていく学びとなる支援したい。

〇上伊那郡内の高校の担当の先生方との情報交換･交流の機会をつくりたい。

〇継続的に学びを支え、質の高い内容を目指すための「仕組みつくり」を検討していきたい。（財源含む）

・・。

3. 郷土愛プロジェクト　今後の構想と取組

【産学官のビジョンの共有、幼保小中高大・社会のつながりのために】

〇郷土愛プロジェクト全体会議の充実、キャリア教育産学官交流会の拡充

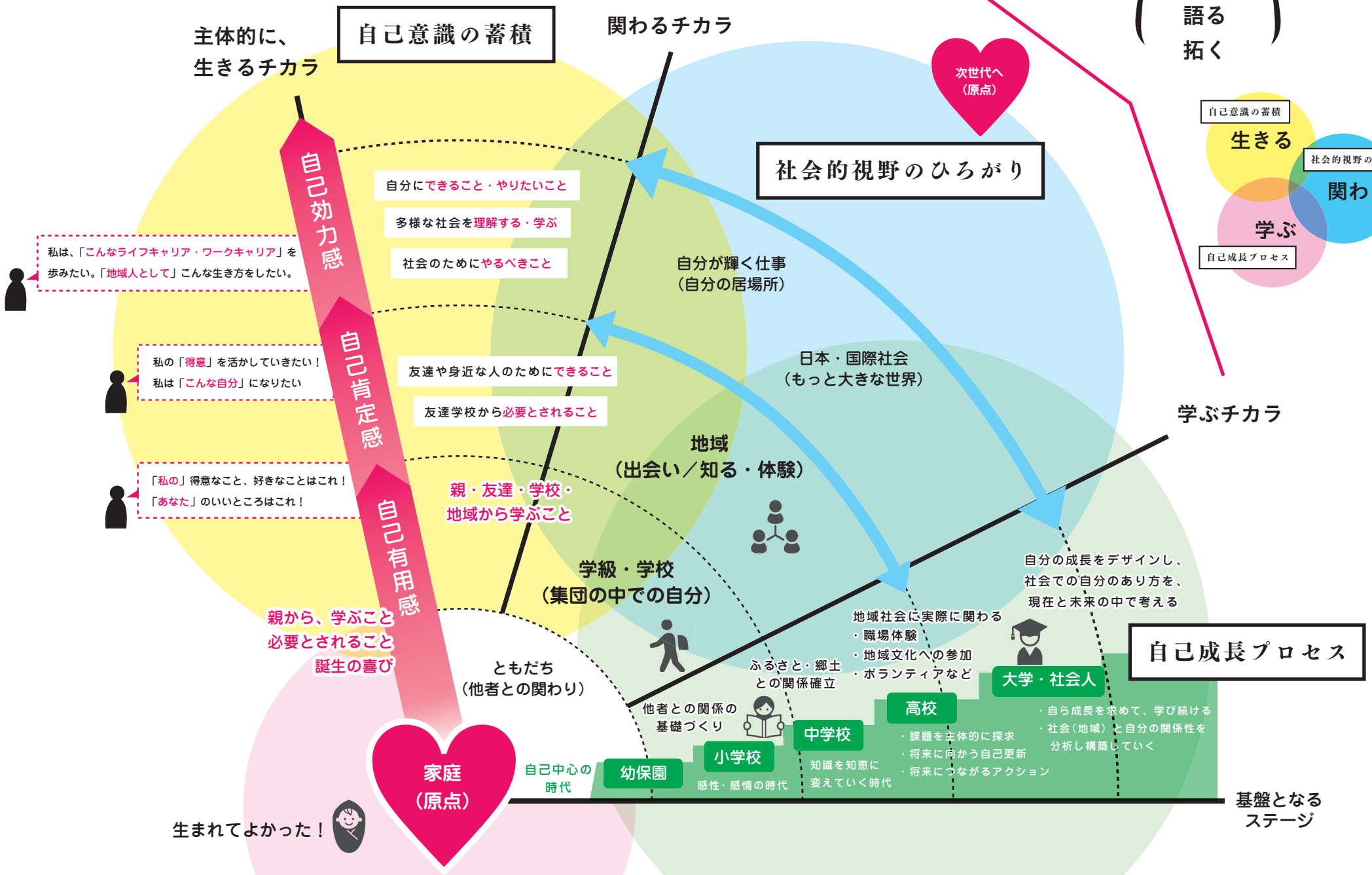
〇「未来ラボin伊那谷（主催事業）」において「これからの教育」をテーマにしたワークショップを実施予定

〇上伊那8市町村キャリア教育担当者会議の実施

【上伊那郡内の高校へのよりよい支援を目指すために】

〇探究の時間（キャリア教育）担当者会議（上伊那9校）実施予定

〇高校への支援の充実と拡大

人・地域社会と協働し、よりよい人生を切り拓く、私

地域社会との関わりを
つくる
つながる
ひろげる
考える
語る
拓く
生き方・キャリア形成